

コロナ禍の影響が塗料業界にどう出てくるのかがどうしても気になるので、世界の Top メーカーの第 1Q (1-3 月) の数字を調べようと思いました。その際、今や世界の単独 4 位となった日本ペイントホールディングの第 1Q の状況を調べるため、同社のホームページを覗いてみたところ、第一四半期決算カンファレンスコール資料と Q&A 概要が掲載されていました。これら資料の内容が大変興味深かったので、他の Top メーカーの状況はまた別の機会にご紹介するとして、今日は日本ペイントホールディングのカンファレンスコール (本年 5 月 15 日実施) の資料についてご紹介します。

このカンファレンスコールとは投資家向け説明会です。同社に限らず、世界の大手メーカーは、一般の決算報告や決算単信以外に、投資家向け説明資料を用意しており、自社の戦略や市場分析さらにはライバルメーカーとの比較などが説明されています。ですから、特に投資家向け説明資料が珍しいということはないのですが、今回、おやっと思った点が二つありました。

一つは、PDF の説明資料に、説明のための文章が記載されていたことです。通常説明用のスライドのみの掲載ですが、スライドの下に当日説明したであろう内容の説明文が添えられていました。二つ目は、説明のあとに行われたであろう Q&A が詳細に掲載されていたことです。タイトルは Q&A 概要でしたが、読む限りにおいては全文ではないかと思われるほど詳細に書かれています。Q&A が掲載されること自体珍しいのですが、こうした詳しい内容が掲載されたのを私は今まで見たことがありませんでした。しかも Q&A の内容はかなり踏み込んだ質問と、それに対しできる限り誠実に返答したいという回答内容であり、読んでいて参考になりかつとても好感がもてました。是非下記に URL からご覧になることをお勧めします。

2020 年 12 月期第 1 四半期決算カンファレンスコール Q&A 資料

https://www.nipponpaint-holdings.com/ir/document/pdf/materials_20200520_5ec4e0bfa7c03.pdf

2020 年 12 月期第 1 四半期決算カンファレンスコール Q&A 概要

https://www.nipponpaint-holdings.com/ir/document/pdf/materials_20200520_5ec4f75add80b.pdf

さて前置きが長くなってしまいましたが、資料の方では、中国の NIPSEA 事業について以下の説明がありました。「中国の 49 工場は、3 月 8 日からすべて再開。全体の工場生産数

量は前年比で、1～2月-30%、3月-20%、4月～+15%で汎用は2Qから前年並みを見込むも3月の繁忙期を逃したため通期業績には影響あり。工業用は需要が弱く回復には時間を要する」 簡潔にして明瞭です。

また地域別分野別の4月単月度の生産数量と売上収益の前年比が紹介されています。「NIPSEA 中国汎用+20%、アジア NIPSEA マレーシア-95%、その他-35%、日本汎用～0%、工業用～-25%、豪州～+15%、アメリカ～-50%、欧州～-40%、自動車事業、日本～-40%、中国～-25%、欧米～-95%」とこちらも明快でした。

さらに、2020年12月期の通期業績予想も数字を出していた点も、経営姿勢を示すものとして評価できるのではないかと思います。説明文にはこのように書かれていました。「全体で一つの数字を予測するのは実際困難です。ただし、私どもとしては、市場の皆様との対話を重視する中、何かベースケースを置いてから、今後その想定との相違などをお知らせすることが、今できるベストではないかと考えました。」

Q&A 概要は、証券会社のアナリストからの質問に答える形で記載されており、中国市場の見通し、サプライチェーン崩壊の可能性への対応など7人アナリストから15の質問がなされたようです。その中でも特に面白いと思ったものを引用してみます。

「ピンチをチャンスにどのように変えていくかをとにかく徹底的に、特に中国チームは議論しています。DIYでは、AkzoNovel社のDuluxブランドが当社の競合になりますが、同社の開示情報を見ると、少なくとも売上は、私どもの落ち込みより大きいと見て取れるため、正確な数字は出ていませんが、現在の事業環境の中でも当社はシェアを取れていると見込んでいます」(中国におけるビジネス環境とシェアアップに対する考え方を聞かれての回答)

「当然ながら、BCPの一環でマルチソーシングしなければならない原材料も、一部見立てており、それに対しては2つの対策を講じています。1つ目は同じ原材料を調達できる場所を探ること。2つ目は配合等を変更することです。もちろんこれはお客様や取引内容に応じ実施可否が変わりますが、建築用塗料では十分に検討の中に入ると考えています。」(サプライチェーン崩壊の可能性とその対応としての新しい試みや気づきについて聞かれての回答)

「一概には言えないというのが一つ目の回答になります。～(中略)～ 二つ目の回答としては、当社のビジネスモデルにおいて、原材料価格の上昇時には値上げをご了承いただく一方で、下落時には汎用のDIYはそれほど値下げしませんが、例えば自動車事業ではか

なり連動する部分があります。したがって、原材料価格の下落がそのまま利益に直結するわけではないことは先ほど申し上げた通りですが、当然原材料価格の低下はポジティブな影響をもたらすことは間違いありません。」(原材料安のメリットについて聞かれての回答)

どうでしょうか?かなりオープンに回答しているように感じます。これら以外にも興味深いやりとりがかなりでてきます。Q&Aだけでも一読をお勧めします。